

宮崎県ではじめて記録されたクリイロケシカニモリ科貝類の1種 —マツキクリイロケシカニモリ（新称）—

三浦知之

〒 880-0035 宮崎市下北方町平田

Abstract

Clathropsis matsukii Cecalupo and Perugia, 2019, a cerithiopsid mollusk species is newly recorded from Iorigawa inlet, Miyazaki Prefecture, Japan. A living specimen collected from underside of a beach boulder was photographed. The soft body is characterized by a simple rectangular foot with rounded corners, a simple, narrow mentum, a pair of short occipital tentacles and a pair of rounded eyes apart from each other with a distance of 5–6 eye breadths.

はじめに

宮崎県と鹿児島県を中心に海岸生物の調査しているが、中でも門川町庵川地区の東西入り江にみられるアマモ場と海岸岩礁域は、貝類の多様性が高い（三浦ほか，2012；三浦，2020a, b）。本稿では沖縄県で記載報告され、宮崎県門川町の庵川東入り江で新たに記録されたクリイロケシカニモリ科巻き貝を報告する。

クリイロケシカニモリ科貝類は、小型で日本での研究が必ずしも進んでいるわけではない（長谷川，2017）。他方、他国の研究者による太平洋域から沖縄周辺海域までの研究が進んでいる（Laserson, 1956; Cecalupo and Perugia, 2019 など）。Cerithiopsidae H. Adams and A. Adams, 1853 は、種数も多く、有効名と判断されるものだけでも 39 属、約 950 種を含んでいる（WoRMS, 2021）。そのほとんどの種は 1 cm 以下で、塔型や涙滴型の概形と明瞭な顆粒による装飾やはっきりした螺肋が特徴である。

材料と方法

材料は、2021 年 4 月 30 日に宮崎県門川町庵川東入り江海岸の転石裏で生体 1 個体と死殻 1 個体を採集した。生体標本は生きたまま持ち帰り、解剖顕微鏡で観察するとともに、生体の撮影を行った。

クリイロケシカニモリ科

Cerithiopsidae H. Adams and A. Adams, 1853

Clathropsis Laserson, 1956

マツキクリイロケシカニモリ（新称）

Clathropsis matsukii Cecalupo and Perugia, 2019 (Figs. 1A–C)

Clathropsis matsukii Cecalupo and Perugia, 2019, pp. 12–13, pl. 3, figs. 1a–c.

採集記録 2021 年 4 月 30 日宮崎県門川町庵川東入り江潮間帯転石裏（1 生体 & 1 死殻）。

形態・分布・生態 宮崎県門川町庵川東入り江の転石裏から得られた生体標本は、殻高 5.5 mm、殻径 1.5 mm であった（Fig. 1A）。胎殻は 4.5 層で、側縁が良く膨らみ、殻表には顆粒等がなく、平滑で、半透明である（Fig. 1B）。後生殻の螺層は門川町の標本では 10 層で、摩耗部を除くとほぼ一様に茶色であった。ただし、沖縄県座間味島からの原記載では 8 層である。後生殻には 3 本の螺肋があり、すべて各層でほぼ同じ大きさの顆粒の列であるが、体層に向かって徐々に大きくなる。縦方向の顆粒列（縦肋）は殻軸に対して -15° 傾

Miura, T. 2021. *Clathropsis matsukii* Cecalupo and Perugia, 2019 (Gastropoda, Cerithiopsidae) newly recorded from Miyazaki Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 48: 49–51.

☑ TM: Hirata, Kitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 14 July 2021; published online: 15 July 2021; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-010.pdf

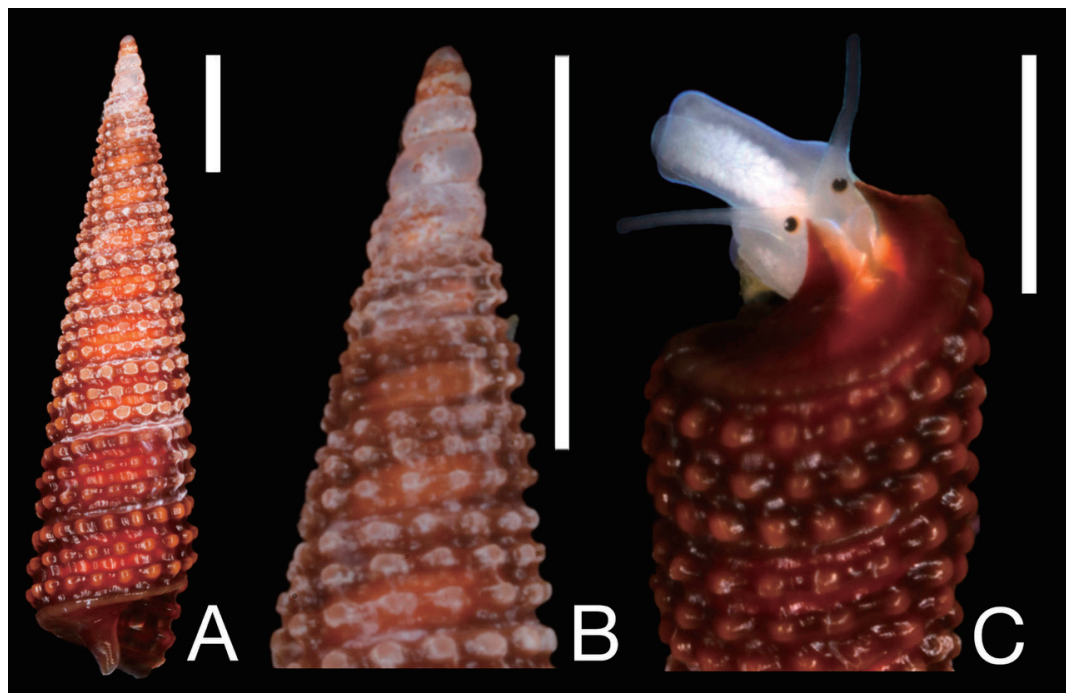


Fig. 1. *Clathropsis matsukii* Cecalupo and Perugia, 2019. A. Specimen collected from Iorigawa Inlet, Kadogawa Town, Miyazaki Prefecture, ventral view; B. Protoconch of the same, lateral view; C. Anterior soft body of the same, dorsal view. Scale for A–C = 1 mm.

いている。螺肋の間には成長脈は見られないが、第8層以後の螺肋間にはキール状の低い顆粒が現れる。体層の周縁部には低く平らな顆粒が融合したような4番目の螺肋が現れる。軸壁は直線的で、短く、殻口は長方形に近い。

軟体部は白色半透明で、頭部触角は先端が丸く、細長い円筒形で左右に張り出し、形は単純である (Fig. 1C)。頭部背面中央の触角基部に円形の眼が1対確認でき、その間隙は眼5–6個分程度で、離れて位置する。眼の前方には口吻基盤が伸び、中央に白色の腺状斑紋が散在する。頭部前縁は極めて中央が浅く窪み、丸みのある長方形である。腹足は、貝殻に比べて小さく、先端がやや丸みを帯びた平板状で突起などはない。

本種は、ネット情報を除くと (Hardy, 2021; はるさ〜, 2021), 原記載以外の採集記録がなく (Cecalupo and Perugia, 2019), 宮崎県の採集個体は、九州での初記録となり、種小名に即した和名を新称した。タイプ産地は座間味島ユヒナ浜沖とされているが、タイプ標本として指定されているのは沖縄本島恩納村世良垣からの標本である

(Cecalupo and Perugia, 2019)。いずれにしても、亜熱帯域の外洋に面したサンゴ礁あるいは岩礁域に広く生息している可能性がある。宮崎県の採集個体は、潮間帯下部の比較的大きな転石の裏に付着していた生体とその周辺の底質から得られた死殻であり、イソコハクガイ科のカズウズマキ *Circulus cingulifera* (A. Adams, 1850) やナギツボ *Vitrinella* sp. が同所的に出現した。このことから、やや還元的な環境にも耐えられる可能性も示唆された。しかし、生体の記録は宮崎が初めてであり、今後とも調査と検討を続ける必要がある。なお、本研究に使用した標本は、宮崎県総合博物館に登録保管される。

引用文献

- Adams, H. and A. Adams, 1853. The genera of recent mollusca; arranged according to their organization. van Voorst, London. Vol. 1, xl + 484 pp. [Published in parts: Vol. 1: i–xl (1858), 1–256 (1853), 257–484 (1854)]
- Cecalupo A. and L., Perugia, 2019. New species of Cerithiopsidae and Newtoniellidae from Okinawa (Japan - Pacific Ocean). *Visaya Supplement*, 12: 1–84.

- Hardy, E., 2021. Hardy's internet guide to marine gastropods (& near classes) release 45.04. <<http://www.gastropods.com/index.shtml>> (2021.06.13).
- はるさ〜, 2021. おんなのクリイロケシカニモリの仲間 <<https://ameblo.jp/mona123kameira/entry-12573910875.html>> (2021.5.17)
- 長谷川和範, 2017. クリイロケシカニモリ科. in 奥谷喬司 編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会, 東京, pp. 879–880, pls.169–170.
- Laseron, A., 1956. The family Cerithiopsidae (Mollusca) zoogeographical province. Australian Journal of Marine and Freshwater Research, 7 (1): 151–182.
- 三浦知之, 2020a. 宮崎県のアマモ場で得られた日本未記録のイトカケガイ科貝類. Nature of Kagoshima, 47: 133–136.
- 三浦知之, 2020b. ‘生きている化石’ガクバンゴウナ科貝類の南九州での記録. Nature of Kagoshima, 47: 143–145.
- 三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵, 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. 宮崎大学農学部研究報告, 58: 51–68.
- WoRMS, 2021. <<http://www.marinespecies.org>> (2021.5.17)